

クロゲンゴロウ

Cybister brevis Aubé

コウチュウ目ゲンゴロウ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

北日本では比較的残存しているが、南日本の太平洋側では、各県の生息地数は数箇所程度と減少している。県内でも、加賀地方、奥能登では個体数は少なくないが、生息地は限られている。

形態

体長20~25mm。体型は卵型。背面は一様に緑色~褐色を帯びた黒色で、光沢がある。体下面は黒~暗赤褐色である。腹部第3~4節の両端に黄褐色の小紋を具える。上翅には3点刻列があり、翅端付近に小黄褐色紋を有する。オスの前附節の基部3節は吸盤状となる。幼虫は体長約45mmのいも虫状。

国内分布

本州、四国、九州。

県内分布

加賀市、小松市、能美市、金沢市、七尾市、能登町、珠洲市。

生態

成虫は水草の茎に5~7月頃に産卵する。幼虫は池沼の浅い部分などで5~8月に出現し、他の水生昆虫などを捕食する。老熟すると岸辺に上陸し土中で蛹化する。新成虫は8~9月に出現し、水域内で10月頃に越冬し、3年ほど生存する。成虫も肉食である。700mほどは飛翔し、ため池や水田を移動して生活する。

生息地の条件

平野部~丘陵地の水生植物の豊富な浅い池沼、湿地、水田、放棄水田、水田脇の水たまり、緩やかな流れの水路に生息する。小規模で浅い水域にも生息する。

生存の危機

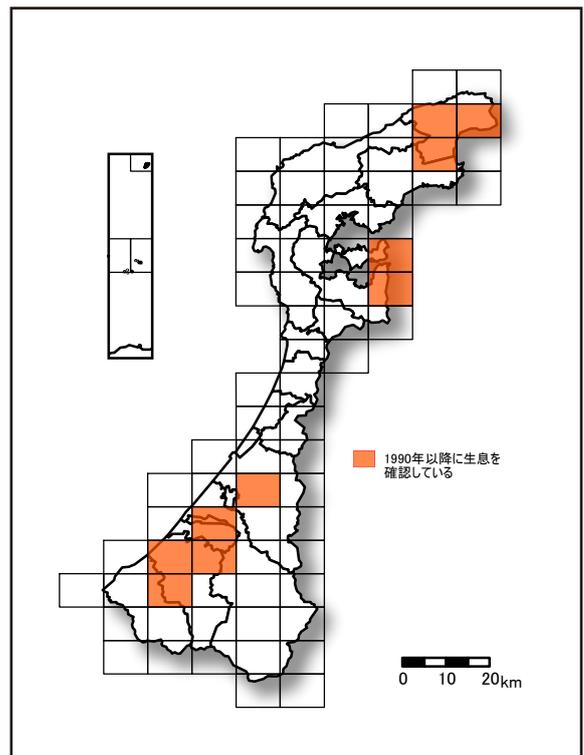
池沼の開発による消失、ため池の管理放棄、コンクリートによる護岸、ほ場整備による乾田化、水質汚染、外来種の侵入、採集圧が脅威となっている。生息地であった小松市金平のため池が埋め立てられた例があり、今後は関係者への生息地の公開による保全が必要と思われる。放棄水田の湛水化や水田脇の水たまりの創出、ため池の維持管理の継続などによる水辺ネットワークの維持が保全上重要である。(A, B, C)

参考文献

西城 洋 2001. 鳥根県の水田と溜め池における水生昆虫の季節的消長と移動. 日本生態学会誌, 51 (1) : 1-11.



写真提供者: 小幡英典



県内の分布